



農商工連携事業で認定を受けた事業計画の紹介

農商工連携とは、農林漁業者と中小企業者が共同して新たな商品等の開発に係る計画について国が認定を行い、この計画に基づく事業に対し、補助金、低利融資等の支援を行うことにより、地域経済を活性化する取組です。これまで、栃木県では5件の計画が認定されていました。

平成22年2月10日に新たに認定された、「㈱まるつね」と「隅内氏」、「㈱白相酒造」と「那須ぎんなん倶楽部」、「ワイズティーネットワーク㈱」と「山口果樹園」とが連携した3件を加えて、県内で8件の認定とりました。

今回は、この3件の計画の概要をご紹介します。

1 太陽と完熟野菜のマリアージュ

～自然乾燥にこだわった

ドライ野菜の開発と販売～

㈱まるつねは、消費者ニーズを満たす地元産完熟野菜を用いた自然乾燥加工を行って高付加価値商品として、料理用や菓子材料として商品化・事業化してきた中で、青果物市場の影響を受けない高付加価値商品による安定収入・経営安定化を目指してきた隅内氏と取り組むこととなった。



トマトといちごの乾燥



トマトの乾燥後製品

2 大田原の大地が育んだ“ぎんなん（銀杏）”を用いたお酒などの開発・事業化

大田原市地域の農家30名により「那須ぎんなん倶楽部」設立して、銀杏栽培に取り組み安定した収穫を見込める状況になったことから、新たな活用として大田原市の市の木イチョウをテーマとした地域産品開発として酒類を製造する㈱白相酒造と連携することとなった。



収穫を待つぎんなんの実



ぎんなんを原料とした焼酎

3 宇都宮産の梨を使った紅茶開発と、おもてなし紅茶文化の普及促進事業

ワイズティーネットワーク㈱が「梨のおもてなし紅茶」を開発・商品化するためには、山口果樹園が取り組む梨の高付加価値化の取り組みと生産する良質の梨及び皮・果肉の乾燥技術が、新しく開発する紅茶のフレーバーとして必要不可欠であることから連携に至った。



山口果樹園のなし「にっこり」



おもてなし紅茶